文化的・社会的貢献活動（その1）

中学生の職場体験学習

当組合は中学生を対象にした職場体験学習に、継続して協力しています。この学習は職業に対する視野を広げ、勤労の大切さや意義を理解して、将来の職業選択に役立てることを目的に行われています。令和8年度は6月から8月にわたって、竹原支店、可部支店、向洋支店、戸坂支店、安浦支店、廿日市支店の6店舗で実施し、近隣の中学校から合計10名を受け入れ、札勘、パソコン入力、窓口業務、ATM管理など体験していただきました。
今回は金融機関の職場体験に自ら進んで参加した生徒が多かったこともあり、窓口で積極的にお客さまに声をかけたり、両替や通帳の返却などの業務を物怖じせず対応していました。
後日送られてきた生徒からの丁寧なお礼状には、金融機関はお客さまの大切な個人情報やお金を扱うので、改めて正確さと確認の大切を実感したと書いてありました。
これからも地域金融機関として、次代を担う若者たちの将来に向けての進路選択に役立つ機会を提供していきます。

竹原支店

可部支店

向洋支店

安浦支店

大学生のインターンシップの受け入れ

産学連携の取り組みとして、毎年インターンシップの学生を受け入れています。令和8年度は8月に広島市内の大学生や短大生の計3校、9名を受け入れ、5日間の研修を実施しました。本部13階大会議室で当組合の概要や業務内容の説明、本店・本部内の見学、DVDの視聴、コンプライアンスやビジネスマナーの研修を受け、営業店では5店舗に分かれて朝礼、接客の実務、得意先係との同行訪問などを実習していただきました。
参加学生には、元気な挨拶をはじめ、業務の確認作業や、お客さまとの信頼関係づくりなど地域金融機関として欠かせない基本的な業務も体験していただきました。
これらの研修を通じて、将来の地域を担う人材が育っていくことを期待しています。

しんくみの日週間の寄付金贈呈

令和8年8月、信用組合が定める「しんくみの日」にあわせて、三矢会（さんしかい）太田川学園（広島市安佐南区）、似島学園（広島市南区）、広島修道院（広島市東区）の各社会福祉法人に寄付金を贈呈しました。三矢会太田川学園は令和7年4月より講師を招き、施設ごとで「おとあそび」という音楽活動を行っています。今年の9月には広島県主催の「第8回あいサポートふれあいコンサートinおのみち2026」に初めて参加しました。似島学園は広島湾に浮かぶ似島にて、山麓に広がる300アールの広い敷地で子どもたちがのびのびと生活を送っています。広島修道院は、様々な事情により家庭で養育を受けることができない2歳から18歳までの子どもたちがここから通園、通学し、温かな雰囲気の中で生活しています。
これらの寄付が福祉の一助になることを願い、これからも地域社会に貢献していきます。

■ 社会福祉法人三矢会

■ 社会福祉法人似島学園

■ 社会福祉法人広島修道院

しんくみいきいき献血運動

9月3日の「しんくみの日」にあわせた社会貢献活動として、献血運動を毎年実施しています。25回目となる令和8年度は9月4日（金）、シシンヨービル13階大会議室を会場に実施しました。近隣にお勤めの方にも声掛けしたほか、本店ビル1階の受付カウンターやエレベーターホールにも催し案内を掲示しました。 当日は近隣の営業店からも職員が積極的に参加し、71名の方（来場者97名）に献血していただきました。日本赤十字社によると広島県内では1日あたり320人分の血液が必要であり、血液の有効期間を注視しながら、献血活動を日々行っているそうです。そのなかで毎年、同じ時期に目標献血量近く集めることができる当運動に、たいへん感謝していると担当者から感想をいただきました。この25年間の実績は延べ参加者1,612名、献血者1,189名となりました。これからも社会、地域が求める活動に積極的に参加していきます。

模擬就職面接に竹原支店協力

令和8年9月4日（金）、竹原商工会議所（竹原市）が主催する模擬就職面接に協力し、竹原支店の職員が面接官を務めました。これは地元の高校生の活躍を地域で後押しする取り組みで、広島県立竹原高等学校商業科3年生の4名が面接に臨みました。面接は高校生1名に対し面接官2名が対応する形で行われ、面接後に感想やアドバイスなどをフィードバックし、質疑応答も行いました。面接官を担当した職員は4名と面談し、「学校、家庭、地域が各自のキャリア発達を支援してくれる取り組みは、とても大切です。この経験を今後の活動に活かしてほしい」と感想を述べています。高校生の就職希望者は少子化と進学希望者増加により、減少傾向にあるため、人手不足の地場企業では採用意欲が高まっています。これからも、将来の地域を支える若い世代の育成に協力していきます。

文化的・社会的貢献活動（その2）

「こども110番の家」スタンプラリーに出島支店協力

令和8年6月27（土）、広島市立宇品小学校（広島市南区）の学区内で「こども１１０番の家」スタンプラリーが開催され、出島支店の職員が協力しました。この催しはふれあいを通して、子どもたちに緊急避難場所である「こども１１０番の家」の場所を覚えてもらうことを目的に行われています。支店では毎年、遠くからでもよく見えるように大きな看板を掲示して協力しています。当日は酷暑日とあって回る小学生も大変でした。それでも回ってきた兄妹はお目当てのシールをスタンプ帳に貼ることができて大満足。人気のシールのおかげで、ラリーのおもしろさが伝わったようです。後日、子どもたちからお礼の手紙が届きました。この手作りの手紙は営業店の宝物として、大切に保管しています。
これからも子供たちが元気に成長できる地域環境づくりに協力していきます。

子どもたちから届いた
お礼のお手紙

江波漕伝馬（こぎでんま）に江波支店協力

嚴島神社の「管絃祭」は毎年旧暦の6月17日に行われ、今年は令和8年7月30日（木）に行われました。江波支店では地域からの要請により、職員2名が御座船（ござぶね）を曳航（えいこう）する江波漕伝馬船に乗込みました。祭り当日までの約1か月間、櫂（かい）の漕ぎ方や盆踊りを練習しました。祭りの始まりは前日7月29日（水）の「川上り（かわのぼり）」から。舟歌を歌いながら江波沖から出発し、本川を上って空鞘稲生神社（広島市中区）で安全祈願と、原爆ドームに黙とうを行いました。そして次の日、本番の管絃祭では荘厳な雰囲気のなか、御座船とともに対岸の地御前神社を往復し、深夜に大鳥居をくぐって戻ってきました。参加した職員は「船に座る位置によって漕ぎ方が異なるなど奥深さを感じた」「大鳥居をくぐり終えた時の達成感は感動」と感想を述べています。
地域に根差した伝統文化が末永く地域に愛され受け継がれていくことを願っています。

嚴島神社十七夜祭に木江支店協力

嚴島神社といえば宮島ですが、実は木江支店のある大崎上島にも嚴島神社のお社が祭られています。
貞観3年（西暦861年）に創建されたそうで、嚴島神社の主神「市岐島姫命（いちきしまひめみこと）」が旅の途中で船をつけた木江浦に、神社ができたという故事が現在も伝わっています。この神社の十七夜祭の神輿担ぎは地区当番持ち回りで、今年は木江支店のある郷区が担当となり、職員が参加しました。7月25日（土）、担ぎ手は神社に集合し、神様を神輿で港まで送りました。櫂伝馬船（かいでんません）の伴走を受け、御座船は港内・湾外を旅し、神輿に戻られてからは陸路でお旅所を回りました。あまりの長道中のため、神輿は一時軽トラックにも担がれました。そのほか櫂伝馬競争や、もちまき大会、花火大会もあり、地域は一日中にぎわいました。
これからも地域に育まれた歴史、文化を後世につないでいくことに協力していきます。

稲生（いなり）神社夏まつりに駅前支店協力

令和8年7月22日（水）、23日（木）、稲生神社（広島市南区）で夏まつりが行われ、駅前支店の職員が協力しました。稲生神社横の道路が歩行者専用道路となり、飲食、ゲーム、福引き、夜店などが催され、地元にお住いの方や近隣で働く人たちでにぎわいました。

職員は初日、子ども向けのゲームコーナーを担当し、2日目は現在では珍しいボンネットバスに無料で乗れるコーナーを運営しました。このバスは昭和43年製造で、冷房もなく板張りの車内で、昭和の雰囲気にあふれていることもあって、毎年大人気です。担当した職員は乗車整理券の配布や運行コースの説明、乗下車の交通整理などに奮闘しました。

多くの顔なじみの方との深耕を深め、地域とつながることの大切さを再認識しました。

これからも地域の活性化に積極的に協力していきます。

新庄夜市に大朝支店協力

令和8年7月18日（土）、北広島町で恒例の「第43回新庄夜市」が開催され、大朝支店の職員も参加し、祭りの盛り上げに協力しました。

新庄学園通り300mの区間を車両通行止めにし、通りに接する新庄学園の駐車場をメイン会場に、30店以上の屋台が並びました。通りの中央にはシンボルの「新庄夜市」と書いてある高さ4メートルの巨大提灯が掲げられ、ステージでは新庄学園の学生が吹奏楽、ダンスなどを披露するとともに、テレビなどで人気絶頂のキャラクターが初登場して、ステージを大いに盛り上げました。

職員は、「地元のお祭りはみんなで盛り上げなくては。顔を合わせて笑顔で楽しまなくては」と祭りの大切さを述べています。大朝地区を代表するこの夏祭りは、地域の皆さん同士が心と心をつなぐ大切な催しです。

これからも地元に寄り添い、地域おこしに積極的に協力していきます。

二百廿日豊年市民祭に廿日市支店協力

廿日市市で300年以上続き、立春から220日目を目途に豊作を感謝する「二百廿日豊年市民祭」が令和8年9月12日（土）、メイン会場の廿日市市中央市民センターを中心に、周辺の天満宮や商店街で行われました。当日は俵神輿や鬼、天狗も街を練り歩き、各所で幅広い年代の方が楽しめるイベントが催され、多くの屋台も並び、多くの人でにぎわいました。

廿日市支店は祭り会場の中心部にあることから、支店の駐車場を駐輪場として提供するとともに、支店職員は子どもたちに税金についてのクイズ用紙を配布し、回答用紙と引き換えに、参加賞（文房具とお菓子）を渡すブースをお手伝いしました。懸命の呼び込みが功を奏し、あっという間にクイズ用紙は配り終えました。地元の顔なじみの方も訪れ、にぎやかに楽しく交流しました。

これからも地域を盛り上げる取り組みに積極的に協力していきます。